



おめでとうございます!!

現実には直前しながら年を重ねていく中

祝 初代「みやぎSDGsアンバサダー」認定! 「わたしのSDGs活動宣言2022」Vol.2



私が所属する法人では、「環境絵日記」事業を行っています。「環境絵日記」は、東

松島市内の小学生に「未来のまちづくり」のアイデアを絵と文章で表現してもらう、というものです。2021年度は445名の作品が集まりました。

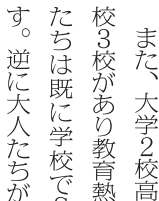
「東松島をお花でいっぱいにしてよ!」市内に太陽光で走る路線バスがあったらいいな「ドローンやロボットを活用した街の美化活動」など純粋な想いで描かれた夢が詰まった作品の数々。「環境絵日記」の作品を眺めると、SDGsについて大人よりも子どもたちの方がしっかりと考えているのではないかと思うのです。

子どもの未来都市を実現する

東松島みらいとし機構 高橋巧さん

で、子どものころに描いていた壮大なアイデア(夢)が失われてきたことを痛感しました。同時に、子どもたちのアイデアを人脈、知恵、経験を活用して実現することが大人たちにはできないことはないかと思うようになりました。大人たちの背中を子どもたちが見て、「アイデア↓実現」が持続化していく。そんな世の中がいいなと思うのです。

「環境絵日記」のアイデアを東松島で実現する。この目標をここで宣言します。東松島で持続可能なまちづくりを実現し、結果としてSDGsの達成につなげていきたいです。



伊達政宗が1607年に造営した大崎八幡宮。一の鳥居から徒歩5分で広瀬川

の水を両手で掬(すく)えることをご存知ですか? 四ツ谷用水は400年経った今も流れを止めず、へくり沢を越えるために作られた土橋通りを今日も人々が行き交います。城下への西の入り口、作並街道の物流拠点としての八幡町(仙台市青葉区)は代々続く商店もあり、例えて言えばSDGsウェディングケーキモデルの図の「ケーキの生地」。既にサステイナブルな地なのです。

SDGsを学び合える商店街に

八幡町商店街ファンコミュニティ 星聡さん

八幡町商店街は、大人も子どもも気軽にSDGsを学べる場をリアルとオンラインで作ります。コロナ禍での各店の事業をSDGsの切り口で見つめ直し、地域住民と普段の生活にSDGsを取り入れていくことがまさに「デコレーション(装飾)をする」という状況です。

10月末には「はちまんSDGsハロウィン」も用意しています。顔の見える取り組みを続けていくことが子どもの見守りや地域の防犯・防災につながると思っています。

八幡町商店街は「SDGsウェディングケーキモデル」をさらに彩りよく飾りつけていきます。



私が勤めるリコージャパンでは毎月「フードバンクWEEK」を設け、食料品

などを持ち寄りNPOふうとぼんく東北A

身近なことからSDGs

リコージャパン 吾郷賢さん

GAİNへ寄付をしています。今、世界には戦争、貧困、飢餓、さまざまな理由で食事を満足に得られず、学校にも行けない子どもたちがいます。

宮城県も例外ではありません。県は子ども食堂の数を2020年度の延べ70カ所から24年度には180カ所とする目標を掲げています。私の贈る食料品は海を渡りませんが、宮城で育った子どもたちが世界へ元気に羽ばたく社会を願っています。

みやぎSDGs塾を通じSDGsを「自分ごと」として捉える大切さについて学びました。皆さんも身近なことから始めてみませんか。長女によれば「難しく考えないこと」が肝のようです。

みやぎSDGs Farm



昨年中学生になった長女のランドセルが海を渡りました。小学校を卒業し不要になったランドセルをアフガニスタンの子どもたちに贈るといふ、NGOジョイセフが行う「思い出のランドセルギフト」に参加しました。親としては手元に残して置きたい気持ちもありましたが、長女がさらりと「誰かのためになるのだったらいいじゃん」と話す姿に感心しました。聞けば小学生の時からSDGsについて学び、実践しているようです。私も負けてはいられません。



みやぎSDGsファーム

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」の考え方を軸に、宮城県内の企業や個人が協力体制を築き、より豊かな地域づくりを目指す取り組みです。その推進役となる人材「みやぎSDGsアンバサダー」を育成するプログラム「みやぎSDGs(えすでーズー)塾」が、2021年11月から開講されています。

賛同企業 募集中!!



【申し込み・問い合わせ】
河北新報社営業局
TEL. 022-211-1318

